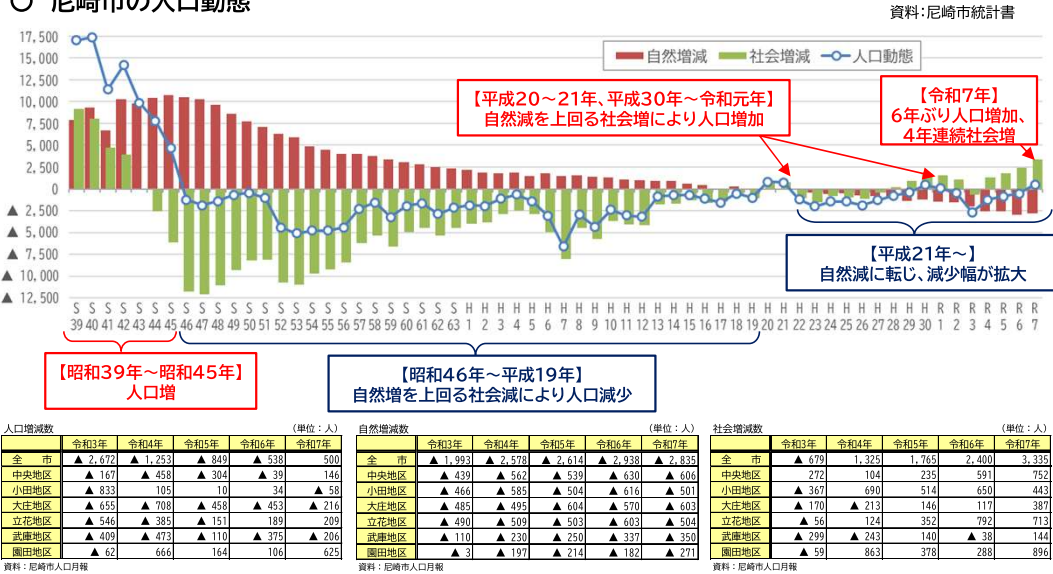


【概要版】人口動態等に関する報告書(令和7年度版)

○ 尼崎市の人口動態



○ 地区別人口の状況

1 人口(報告書 P.1～)

全市の人口は、令和7年度末(令和8年3月末)で、45万8,203人となり、令和2年度以来6年ぶりに人口が増加した。一方で、最近5年間では、令和3年度末より0.2%の減少(▲1,058人)となっている。

地区別にみると、令和7年度末時点で、立花地区が10万7,439人と最も多く、大庄地区が5万399人と最も少ない。最近5年間では、園田地区で1.6%増加(1,546人)、小田地区で0.3%増加(238人)した。ほか4地区は減少し、うち、大庄地区が3.1%減少(▲1,604人)、武庫地区が1.3%減少(▲973人)と減少率が高い。武庫地区の減少が進み、小田地区とほぼ同数の7万4千人台となっている。



人口 (各年度末現在) (単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	変化 (R3～R7年度)	
						実数	増加率
全 市	459,261	458,313	457,237	457,072	458,203	▲1,058	▲ 0.2%
中央地区	52,346	52,116	51,774	51,763	52,115	▲231	▲ 0.4%
小田地区	74,207	74,408	74,239	74,382	74,445	238	0.3%
大庄地区	52,003	51,425	51,053	50,605	50,399	▲1,604	▲ 3.1%
立花地区	107,473	107,051	106,966	107,185	107,439	▲34	▲ 0.0%
武庫地区	75,766	75,397	75,154	74,959	74,793	▲973	▲ 1.3%
園田地区	97,466	97,916	98,051	98,178	99,012	1,546	1.6%

資料：尼崎市の人口 (住民基本台帳人口)

2 65歳以上の人口(報告書 P.5～)

全市では12万3,487人であり、近年は減少が続き、令和3年度末より2.7%減少(▲3,400人)している。最近5年間では、武庫地区は横ばい、ほか5地区は減少し、特に、大庄地区の6.1%減少(▲1,027人)をはじめ、南部3地区の減少率が高い。

65歳以上人口 (各年度末現在) (単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	変化 (R3～R7年度)	
						実数	増加率
全 市	126,887	125,871	125,084	124,224	123,487	▲3,400	▲ 2.7%
中央地区	15,927	15,748	15,611	15,412	15,301	▲626	▲ 3.9%
小田地区	21,432	21,196	20,953	20,775	20,609	▲823	▲ 3.8%
大庄地区	16,708	16,421	16,193	15,871	15,681	▲1,027	▲ 6.1%
立花地区	29,461	29,234	29,084	29,008	28,841	▲620	▲ 2.1%
武庫地区	19,842	19,888	19,881	19,818	19,844	2	0.0%
園田地区	23,517	23,384	23,362	23,340	23,211	▲306	▲ 1.3%

資料：尼崎市の人口 (住民基本台帳人口)

○ 人口動態の状況

1 地区別単身・二人世帯における社会動態

(1) 単身世帯の傾向(報告書 P.28～)

令和7年の単身世帯の転入は15,524世帯、転出は11,815世帯で、3,709世帯の転入超過となった。転入は4年連続の増加となり、転入超過は令和4年から拡大が続いている。

地区別にみると、6地区とも市外からの転入超過となった。超過数は立花地区で964世帯と最も多く、園田地区が844世帯と続いた。最近5年間では、大庄地区で令和3～4年に転出超過となったほかは、いずれも転入超過が続いている。

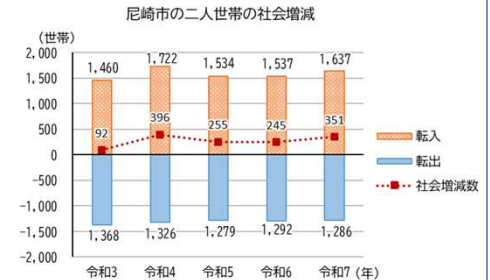
(2) 二人世帯の傾向(報告書 P.32～)

令和7年は、転入が前年より6.5%増加(100世帯)して1,637世帯、転出が0.5%減少(▲6世帯)して1,286世帯となり、351世帯の転入超過となった。

地区別にみると、6地区とも転入超過となり、超過数は園田地区で145世帯と最も多かった。最近5年間では、武庫地区で令和3～4年、中央地区で令和5～6年に転出超過となったほかは、いずれも転入超過となっている。



資料：尼崎市都市政策課



資料：尼崎市都市政策課

●単身世帯の社会動態 (単位：世帯)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
全 市	771	1,697	2,198	3,212	3,709
中央地区	294	262	367	628	690
小田地区	114	367	370	754	590
大庄地区	▲38	▲6	108	209	384
立花地区	234	491	584	769	964
武庫地区	13	84	64	222	237
園田地区	154	499	705	630	844

資料：尼崎市都市政策課

●二人世帯の社会動態 (単位：世帯)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
全 市	92	396	255	245	351
中央地区	20	7	▲2	▲2	19
小田地区	22	157	93	71	55
大庄地区	2	30	18	19	31
立花地区	41	64	45	84	81
武庫地区	▲10	▲8	37	51	20
園田地区	17	146	64	22	145

資料：尼崎市都市政策課

2 10歳階級別・転入元・転出先別 社会動態(報告書 P40～)

10歳階級別の社会動態をみると、20歳台、10歳台、50歳台で転入超過、その他は転出超過の傾向にあるが、令和7年は10歳台から50歳台まで転入超過となった。超過数は20歳台が2,408人と突出し、次いで10歳台が193人で、ともに超過数が4年連続で拡大している。

自治体別にみると、令和7年は、神戸市650人、西宮市365人、大阪市369人の転入超過となった。最近5年間は、神戸市及び西宮市は一貫して転入超過、伊丹市及び東京圏は一貫して転出超過である。

10歳階級別 社会動態 (転入～転出) (単位：人)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
総 数	▲456	891	1,282	1,600	2,390
0～9歳	▲613	▲540	▲368	▲522	▲413
10～19歳	50	99	105	114	193
20～29歳	1,016	1,352	1,587	2,122	2,408
30～39歳	▲434	▲47	104	▲10	105
40～49歳	▲222	28	▲93	▲6	36
50～59歳	▲16	253	93	56	178
60歳以上	▲236	▲252	▲145	▲154	▲115

(両表とも)資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注1)外国人を含む。(注2)「総数」は転入元・転出先・年齢が不詳の者を含み、各項の合計と合わないことがある。(注3)「東京圏」は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、神奈川県の合計。

転入元・転出先別 社会増減数 (単位：人)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
総 数	▲456	891	1,282	1,600	2,390
神戸市	250	561	692	636	650
明石市	47	▲21	▲36	11	47
西宮市	20	103	121	343	365
伊丹市	▲290	▲85	▲6	▲151	▲472
宝塚市	27	13	▲89	▲56	0
大阪市	▲123	209	134	98	369
豊中市	▲59	32	▲11	▲37	21
東京圏	▲484	▲404	▲567	▲480	▲353
その他	159	483	1,043	1,236	1,763

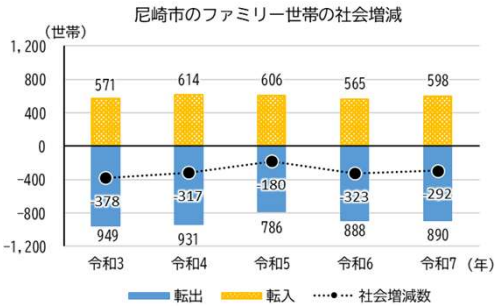
○ ファミリー世帯(5歳未満の子どもがいる世帯)の状況

1 転入元・転出先別 社会動態 (報告書 P.45～)

ファミリー世帯は転出超過が続いているが、令和7年の転出超過は、前年より9.6％縮小(31世帯)して292世帯となった。本市と人口の移動が多い自治体別にみると、最近5年間では、大阪市が一貫して転入超過、その他は概ね転出超過である。このうち、伊丹市は前年より77.8％拡大(56世帯)して、128世帯の転出超過となった。

ファミリー世帯の社会増減(転入－転出) (単位：世帯)					
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
合 計	▲ 378	▲ 317	▲ 180	▲ 323	▲ 292
神戸市	▲ 34	▲ 24	17	▲ 27	▲ 38
明石市	▲ 15	▲ 21	▲ 20	▲ 19	▲ 6
西宮市	▲ 30	▲ 49	▲ 29	▲ 42	▲ 26
伊丹市	▲ 78	▲ 76	▲ 57	▲ 72	▲ 128
宝塚市	▲ 26	▲ 15	▲ 31	▲ 44	▲ 34
大阪市	43	63	54	39	69
豊中市	▲ 11	▲ 4	▲ 4	▲ 4	▲ 7
東京圏	▲ 9	▲ 8	▲ 3	▲ 21	▲ 13
その他	▲ 218	▲ 183	▲ 107	▲ 133	▲ 109

資料：尼崎市都市政策課



2 町丁目別 社会動態 (報告書 P.49～)

令和7年に転入超過となった町丁目を見ると、園田地区の「小中島3丁目」(27世帯)、同地区の「上坂部1丁目」(21世帯)、立花地区の「南塚口町7丁目」(20世帯)が20世帯以上となっている。50世帯を超えるような転入超過となる町丁目はなかった。転出超過となった町丁目では、園田地区の「南塚口3丁目」(17世帯)が超過数が最も多く、次いで立花地区の「上ノ島町1丁目」(16世帯)、「塚口町1丁目」(14世帯)、小田地区の「額田町」(13世帯)が続いている。

令和5年からの3年間をみると、武庫地区の「武庫之荘8丁目」、園田地区の「食満5丁目」は、3年間連続して転入超過である。また、小田地区の「額田町」、園田地区の「南塚口町3丁目」、立花地区の「南武庫之荘2丁目」、武庫地区の「南武庫之荘1丁目」は3年連続の転出超過となっている。

町丁目別 ファミリー世帯の転入超過数(上位5位、単位：世帯)

	令和5年		令和6年		令和7年	
	転入超過数	世帯数	転入超過数	世帯数	転入超過数	世帯数
地区 西	西難波町2丁目	8	西難波町3丁目	5	西難波町3丁目	8
地区 中	東難波町4丁目	5			西難波町3丁目	7
地区 央					西難波町1丁目	6
小田地区	長洲西通1丁目	8	(該当なし)		金楽寺町2丁目	13
	常光寺1丁目	6			潮江5丁目	6
	久々知1丁目、潮江1丁目、浜3丁目、常光寺2丁目	各5				
大庄地区	大庄西町3丁目	12	大庄西町1丁目	6	篠川町	11
	大島2丁目	10	大島2丁目	6	大庄中通2丁目	5
	浜田町4丁目	6	大庄西町3丁目	5		
	大庄西町2丁目	5				
立花地区	立花町1丁目	34	武庫之荘東2丁目	27	南塚口町7丁目	20
	高松町4丁目	15	富松町4丁目	9	富松町3丁目	13
	塚口町4丁目	7	水堂町2丁目	6	富松町1丁目	8
	尾浜町1丁目	6	尾浜町2丁目	5	尾浜町1丁目	5
	尾浜町2丁目	5	塚口町7丁目	5		
武庫地区	武庫之荘本町2丁目	17	武庫之荘4丁目	14	武庫之荘8丁目	9
	西昆陽2丁目	14	武庫之荘本町1丁目	12	西昆陽1丁目	8
	武庫之荘本町1丁目	10	武庫豊町2丁目	9	武庫之荘9丁目	6
	武庫之荘8丁目	7	武庫豊町3丁目	9	西昆陽3丁目	6
	南武庫之荘8丁目	5	武庫之荘8丁目	7		
園田地区	若王寺3丁目	22	若王寺3丁目	11	小中島3丁目	27
	食満5丁目	20	食満5丁目	7	上坂部1丁目	21
	若王寺1丁目	6	若王寺1丁目	6	食満5丁目	14
	田能4丁目	6	南塚口町6丁目	5	瓦宮2丁目	8
	食満3丁目	6	瓦宮2丁目	5		

(両表とも)
資料：尼崎市都市政策課
(注1)市内転居による地区間移動を含む。
(注2)令和6年について、4世帯以下の町丁目は上位5位内でも省略。

町丁目別 ファミリー世帯の転出超過数(上位5位、単位：世帯)

	令和5年		令和6年		令和7年	
	転出超過数	世帯数	転出超過数	世帯数	転出超過数	世帯数
地区 東	東難波町3丁目	8	東難波町4丁目	7	東難波町5丁目	10
地区 西	西大物町	7	東難波町5丁目	5		
地区 中			西大物町	5		
小田地区	善法寺町	6	額田町	12	額田町	13
	長洲本通1丁目	6	長洲本通1丁目	8	長洲西通1丁目	11
	潮江5丁目	5	浜3丁目	6	潮江1丁目	10
	額田町	5	金楽寺町1丁目	6	潮江2丁目	8
			下坂部3丁目	5	浜2丁目	7
大庄地区	大庄西町4丁目	11	大庄川田町	10	浜田町3丁目	8
	大庄川田町	6	大庄西町4丁目	6	大庄西町4丁目	6
			稲葉元町2丁目	5	浜田町2丁目	5
					大庄中通1丁目	5
					稲葉1丁目	5
立花地区	南塚口町8丁目	16	塚口町1丁目	13	上ノ島町1丁目	16
	塚口町1丁目	12	南武庫之荘8丁目	12	塚口町1丁目	14
	南武庫之荘2丁目	12	上ノ島町3丁目	11	南武庫之荘2丁目	12
	富松町1丁目	12	南武庫之荘2丁目	10	南武庫之荘3丁目	11
	上ノ島町3丁目	12	七松町3丁目	9	南武庫之荘1丁目	11
武庫地区	南武庫之荘4丁目	16	南武庫之荘7丁目	14	南武庫之荘4丁目	12
	南武庫之荘5丁目	14	南武庫之荘5丁目	12	南武庫之荘8丁目	12
	武庫之荘2丁目	9	武庫町1丁目	11	武庫之荘5丁目	12
	南武庫之荘1丁目	9	南武庫之荘1丁目	10	南武庫之荘1丁目	9
	武庫町1丁目	8	南武庫之荘6丁目	9	常松1丁目	9
					南武庫之荘1丁目	9
園田地区	南塚口町3丁目	23	南塚口町3丁目	19	南塚口町3丁目	17
	南塚口町5丁目	17	南塚口町1丁目	12	東園田町6丁目	12
	東園田町8丁目	12	南清水	14	東塚口町1丁目	12
	猪名寺1丁目	11	御園2丁目	13	上坂部2丁目	12
	東園田町5丁目	10	東園田町2丁目、東園田町5丁目、南塚口町5丁目	各12	猪名寺2丁目	12
	御園1丁目	10				

○ 在留外国人口の状況

1 在留外国人口 (報告書 P.17～)

令和7年度末時点の在留外国人口は16,065人で、前年度より10.7％増加(1,554人)した。令和3年度末と比べると38.5％増加(4,464人)している。

地区別にみると、人口は、立花地区で3,262人、園田地区で3,558人、中央地区で2,858人と多く、武庫地区が1,960人と最も少ない。令和3年度末と比べると、6地区とも増加し、なかでも、園田地区で増加率が60.4％と高く、中央地区、小田地区、立花地区も40％台の増加率となっている。

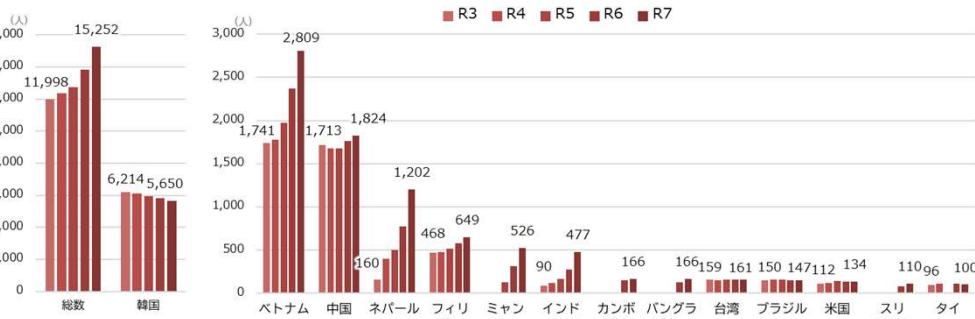
在留外国人口(各年度末現在)						(単位：人)	
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	変化(R3～R7年度)	
						実数	増加率
全 市	11,601	12,368	13,208	14,511	16,065	4,464	38.5%
中央地区	1,921	2,061	2,171	2,474	2,858	937	48.8%
小田地区	1,602	1,733	1,904	2,158	2,312	710	44.3%
大庄地区	1,908	1,992	2,126	2,270	2,415	507	26.6%
立花地区	2,328	2,455	2,663	2,942	3,262	934	40.1%
武庫地区	1,811	1,858	1,855	1,870	1,960	149	8.2%
園田地区	2,031	2,269	2,489	2,797	3,258	1,227	60.4%

資料：尼崎市の人口(住民基本台帳人口)

2 (参考)国籍別在留外国人口

国籍・地域別外国人口 (単位：人)														
	総数	韓国	ベトナム	中国	ネパール	フィリピン	ミャンマー	インドネシア	カンボジア	バングラデシュ	台湾	ブラジル	米国	スリランカ
R3	11,998	6,214	1,741	1,713	160	468	-	90	-	-	159	150	112	-
R4	12,351	6,106	1,780	1,681	397	478	-	117	-	-	151	157	115	-
R5	12,730	5,950	1,975	1,680	502	513	129	169	-	-	154	154	142	-
R6	13,829	5,827	2,368	1,766	772	581	312	277	150	124	154	149	133	81
R7	15,252	5,650	2,809	1,824	1,202	649	526	477	166	166	161	147	134	110
R7-R3	3,254	▲ 564	1,068	111	1,042	181	-	387	-	-	2	▲ 3	22	-

資料：出入国在留管理庁「在留外国人統計」各年6月末。データがない年は「その他」に計上。



資料：上表に同じ。(注1) 同一グラフにすると増減がわかりにくいため、「総数」「韓国」とグラフを分けている。



資料：兵庫県企画経済統計「県人口調査」、尼崎市「尼崎市の人口」

国籍別にみると、令和7年6月末時点で、韓国籍の人が37.0％(5,650人)と最も多い。ベトナム国籍の人は令和3年に中国籍の人数を抜いて第2位の人数となった後も増加が続き、前年より18.6％増加(441人)して2,809人となった。

また、ネパール国籍の人は55.7％増加して1,202人、ミャンマー国籍の人は68.6％増加して526人、インドネシア国籍の人は72.2％増加して477人となった。